

QUESTION

世代別の希望

Hope?

■ 戦後世代(～1940年代生まれ)

希望＝「回復と再建」

焼け野原からの出発。

希望は未来というより「失われたものを取り戻す力」。

- ・ 家族を再び築く
- ・ 社会を立て直す
- ・ 「普通の生活」を手に入れる

👉 希望は「まだ見ぬ未来」ではなく、「あるべき秩序の回復」。

■ 高度成長世代(1950～60年代生まれ)

希望＝「上昇と拡大」経済が右肩上がりに伸びる中で、
希望は「努力すれば報われる」という直線的な物語。
出世・収入増マイホーム豊かさの可視化

👉 希望は“階段”。上へ、上へ。。

■ 就職氷河期世代(1970年代前半～80年代前半生まれ)

希望＝「耐えながら持ち続けるもの」

構造的な不遇の中で、

希望は大きく語るものではなく、「折れないこと」そのもの。

- ・ 不安定な雇用
- ・ 自己責任論の圧力
- ・ 長期的な見通しの欠如

👉 希望は“声を潜めた炎”。消えないことが勝利。

■ ミレニアル世代(1980年代後半～90年代生まれ)

希望＝「意味とつながり」

物質的豊かさが当たり前になると、

希望は「どんな人生を生きるか」という質へ移動。

- ・ 自己実現
- ・ 共感・コミュニティ
- ・ ワークライフバランス

👉 希望は“物語”。自分で編むもの。

■ Z世代(1990年代後半～2010年前後生まれ)
希望＝「小さく、確かで、共有可能なもの」
不確実性(気候・経済・社会)とSNSの時代。
大きな未来像より、「今日をどう生きるか」に焦点。

- ・ 心理的安全性
- ・ 多様性の尊重
- ・ “無理しない持続可能性”

👉 希望は“点滅するLED”。
強くなくていい、消えなければいい。

■ これからの世代（ α 世代以降）

希望＝「共創されるプロセス」

AIや気候変動など、人間単独では扱えない課題の中で、希望は「完成された未来」ではなく「関わり続けること」へ。

- ・ 人とAIの協働
- ・ 地球規模の倫理
- ・ 不確実性との共存

👉 希望は“完成しない設計図”。描き続けること自体が希望。